

次期米大統領「離脱」のトランプ氏 発効の見込みなし

TPP批准やめよ

米大統領選挙でTPP(環太平洋連携協定)に反対しているトランプ氏が当選、オバマ大統領も任期中の批准を断念。TPPの発効が見通せない事態です。にもかかわらず安倍政権がTPP承認案と関連法案の審議を急ぐとは…。文字通り「世界の物笑い」です。TPP批准はやめるべきです。

平等・互恵のルールづくりをいまの「自由貿易」は、多国籍企業のもうけを最大化するためのもので、各国で格差と貧困を広げ、国民の利益を損なっています。必要なのは、各国の経済主権を尊重しながら、平等・互恵の貿易の投資のルールづくりです。



公約と国会決議への違反はあきらまか



© カクサン部!

TPP協定は、「TPP断固反対」という自民党の公約に真つ向から反します。「(重要農産物で)無傷なものはない」と農水大臣が答弁するように、「重要農産物は除外」とする国会決議にも明確に反します。まして、交渉経過を一切明らかにせず、「黒塗り資料」で国会と国民を欺いたままでの批准など論外です。

TPP「百害あって一利なし」

TPPは農業問題だけではありません。協定は24分野に関わり、その影響はあらゆる分野に及びます。多国籍企業の利益拡大のじやまになる仕組みやルールは『非関税障壁』として撤廃されます。国民にとって百害あって一利なしです。

- 遺伝子組み換え食品の表示が危うくなり、食の安全が脅かされます。
- 医薬品の価格が高くなり、医療保険制度が危うくなります。
- 保険や共済の分野にアメリカ企業の参入を許し、支配されます。
- 外国の安い製品や労働力が入り、仕事や雇いが奪われます。
- 国有企業や自治体の仕事が多国籍企業に開放されます。



外国企業による内政干渉に道

外国企業が、進出先の政府などの政策で損害を被ったと判断すれば国際仲裁機関に訴え、損害賠償を請求できる——TPP協定にあるISD条項は、外国企業の投資利益を最大の基準とし、暮らしか環境を守るルールをねじ曲げ、国家主権をあからさまに侵害する仕組みです。

「最悪の協定」

(ノーベル賞学者)

ノーベル経済学賞を受賞したアメリカの経済学者スティグリッツ氏は、3月に来日した際、「TPPは最悪の協定。特定集団のための『管理された』貿易協定だ」と厳しく批判しています。